

歴史民俗資料館だより

令和7年12月号 師走 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪 1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

間もなく来館者数が100万人になります

仙台市歴史民俗資料館の来館者数が間もなく100万人になります。当館は、昭和54年11月に開館しました。今年で開館から46年になりますが、市民の皆様に支えていただき、この度、12月中旬に来館者数が100万人を達成する見込みとなりました。

100万人達成の記念として、ささやかではありますがセレモニーを行い、記念グッズをプレゼントしたいと考えているところです。

詳細が決まりましたら、当館のSNS「X」で御紹介いたします。

季節展示「仙台の正月」

■令和7年12月6日～令和8年2月1日

あと1か月で新しい年を迎えます。

季節展示「仙台の正月」では、仙台地方の正月行事や正月膳について御紹介します。

また、仙台の伝統的な門松を再現したものを展示しますので、ぜひ御覧ください。



子供たちからお手紙をいただきました。(宮城野区I小学校)

素敵なお手紙ありがとうございます。

○石臼はとても楽しかったし、きなこのにおいがすごかったです。行灯は、昔の人があんな真っ暗なのに、寝たりしたのがすごいと思いました。一番楽しかった所は昔遊びのコーナーです。やったこのとのない遊びができて嬉しかったです。とても楽しかったです。

○この度は、歴史民俗資料館を見学させていただき深く感謝申し上げます。仙台市の歴史についてたくさんを知ることができました。特に、昔から今までの物の移り変わりについて、いろいろなところに書いてあったのでたくさん知ることができました。また行きたいです。

○お忙しい中、私たちのために色々教えてくれてありがとうございます。勉強になったことは、くつやさんの看板のことです。猪股はきもの店で使っているかんばんは、今みたいなかんばんだと思いました。大きい下駄を使っていてびっくりしました。

くらしのかたち 「衣の生活」

毎日の暮らしの中で、かつて衣の生活を担い、支えてきた女性であった。今のようには既製服を着る時代とは違い、わが家の家族全員に衣服を用意し着せることが、主婦にまかせられた役目であった。忙しい家事や育児の合間に、また夜なべ仕事に糸を紡ぎ、布を織り、服を縫い、そして古い衣服を繕って着せることが、衣服も管理者である主婦にとって、欠かせない仕事であった。



当館で展示している「高機」

衣の生活といっても、その範囲は、身につける衣服はもちろんのこと、かぶる物や履物、化粧、髪型、寝具に至るまで大変幅広く、また、洗濯、収納など衣服の管理までに及び、多岐にわたっている。

衣服でも、ふだん着、外出着、儀礼の衣服というように、どんな時に着るのかによっても違いがある。

(参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」)